

Title	新規製品分野進出における第一次量産工場設置問題 - H社の人工皮革工場の事例を中心として -
Sub Title	
Author	松永美弘(Matsunaga, Yoshihiro) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第436号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0436

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 松 永 美 弘
(武庫産業株式会社)

主査 小 野 桂之介
副査 古 川 公 成
柴 田 典 男

所属ゼミナール 小 野 桂之介 研

新規製品分野進出における第一次量産工場設置問題 —H社の人工皮革工場の事例を中心として—

近年、従来からの製品ラインに加えて、これまで扱っていなかった製品分野へ参入し、その事業分野を拡大する企業が数多く見受けられる。本論文は、こういった多角化へ企業が事業展開していく時にどのような点に留意しておかなければならないかについて考察してみた。とりわけ工場建設をとまなう多角化進出について検討してみた。

事例研究として成長途上にあるH社の人工皮革工場設置の意思決定問題をつうじて新規製品分野進出における第一次量産工場設置問題を多面的に取り扱った。経営戦略論の評価と策定に関しては、H. I. アンゾフとW. E. ロスチャイルドの企業戦略論、経営戦略論をフレームワークとして採用した。具体的な研究作業として上記の理論研究をおこなった上でH社が現在従事している天然皮革業界とこれから本格的に参入していこうとする人工皮革業界についての文献調査研究をおこなった。そしてH社の実態調査(社内資料分析とインタビュー調査)を行い、これらをもとにして同社の人工皮革プロジェクトの内容を検討していった。市場動向や企業のもつ経営資源をはじめ、第一次量産工場設置の意思決定に関わる諸問題についての研究の結果、第一次量産工場設置の踏み出し方がその企業の将来の経営に多大な影響を与えること。特に、設備投資の拡大が収益、財務面のみならず企業カルチャーにいたるまでの広範囲にわたる重大な影響を与えることがわかった。これらの作業により企業が多角化戦略を採用していく時にどのような配慮が必要であるかが理解できた。